

# 東京藝大出身の陶芸家たち

## 菊池コレクションから



(左から) 川崎毅「匣」1981年/田村耕一「石榴文大皿」1978年/杉浦康益「陶の博物誌 ドクダミの花」2001年

2012年7月7日[土] ~ 9月23日[日]

菊池寛実記念 智美術館

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1F

TEL03-5733-5131 FAX03-5733-5132

<http://www.musee-tomo.or.jp>

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、私ども菊池寛実記念 智美術館の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。こちらに当館の次回展覧会、「東京藝大出身の陶芸家たち—菊池コレクションから」展につきまして、ご案内させていただきます。

本展は、当館創設者・菊池智が長年にわたり蒐集してきた現代陶コレクションの中から、東京藝術大学陶芸講座出身作家の作品に焦点を当て展覧するものです。東京藝術大学における陶教育は、1955年に陶磁器講座が正式に開講、63年に陶芸講座として整備されて以来、加藤土師萌（はじめ）、藤本能道（よしみち）、田村耕一、浅野陽（あきら）、三浦小平二等歴代教授の指導のもと、多くの作家を輩出してきました。本展では、各教授陣及び、菊池と特に親交のあった藤本能道の教授時代に在籍した作家たちの作品を中心として、同学から生まれた陶芸作品をご紹介します。

つきましては展覧会の概略をご案内申し上げますので、本展を多くの皆様にお知らせいただき、周知にご協力を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

敬具

## ■■■ 展覧会概要 ■■■

- 展覧会名 東京藝大出身の陶芸家たち 菊池コレクションから
- 会期 2012年7月7日(土)～9月23日(日)
- 観覧料 一般 1,000円／大学生 800円／小中高生 500円
- 主催 公益財団法人菊池美術財団
- 会場 菊池寛実記念 智美術館 (〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル)  
<http://www.musee-tomo.or.jp>
- 開館時間 午前 11 時から午後 6 時まで (入館は午後 5 時 30 分まで)
- 休館日 毎週月曜日 (但し 7 月 16 日、9 月 17 日は祝日のため開館)、7 月 17 日(火)、9 月 18 日(火)
- 展示内容 東京藝術大学の陶芸専攻出身作家の作品により構成
- 関連行事 会期中に講演会、見学会、子ども向けワークショップ、学芸員による展示解説、美術館コンサート、西洋館見学会を開催 (詳細はリリース 4 頁参照)。

展覧会に関するお問い合わせ先:  
菊池寛実記念 智美術館(担当:高田)  
☎03-5733-5131 / FAX03-5733-5132

## ■■■ 展覧会内容のご案内 ■■■

### 東京藝大における陶芸教育

東京藝術大学における陶芸教育は、1955年に陶磁器講座、研究室が正規に発足して以来、1963年には大学院を含む専門課程の陶芸講座として整備され、半世紀余りの歴史をもちます。その間、轆轤を中心とする伝統をふまえた技術習得に教育の重点が置かれながらも、加藤土師萌、藤本能道、田村耕一、浅野陽、三浦小平二、島田文雄等、旺盛な作家活動を行う歴代教授の下、助手や学生たちが同じ釜の飯を食い、学ぶ場となった同講座からは、用の器はもとより造形的作品に挑む作家まで、多彩な人材が輩出されてきました。



1. 伊藤東彦「布目蓮文長皿」1979年

### 菊池コレクションとのつながり



2. 島田文雄（現・陶芸講座教授）  
「青白磁陰刻草花文皿」 1975年

当館創業者、菊池智は現代陶の蒐集を通じ、色絵磁器の重要無形文化財保持者（人間国宝）であった藤本能道（1919-1992）との親交を深めましたが、それを端緒として、藤本の教授時代を中心に、陶芸講座の初期に在籍した作家たちの作品も多く収蔵していきました。現在それらは菊池コレクションの重要な一角を担っています。

智美術館開館 10 周年を迎えた本年、「東京藝大出身の陶芸家たち」と題し、コレクション展として初めて同学出身陶芸家の作品を一堂に展示いたします。東京藝術大学の陶芸教育より生まれた作品をご覧ください、やきものの可能性と魅力を感じていただく機会になればと存じます。

#### \*東京藝術大学、陶磁器講座（陶芸講座） 歴代教授について:

◆加藤土師萌(1900-68)陶磁器研究室初代教授。東京美術学校に附属の文部省工芸技術講習所(1941~51)以来、同校の陶磁器教育に関わった。重要無形文化財「色絵磁器」保持者◆藤本能道(1919-92)工芸技術講習所で加藤、富本憲吉等に師事。1970年教授就任、1985(～1989)年学長就任。重要無形文化財「色絵磁器」保持者◆田村耕一(1918-87)1941年(藤本と同年)東京美術学校卒業。戦後、富本憲吉らに師事、佐野市に築窯。1977年教授就任。重要無形文化財「鉄絵」保持者◆浅野陽(1923-97)1941年東京美術学校に入学、漆工を学び卒業後工芸技術講習所に勤務。1979年教授就任。◆三浦小平二(1933-2006)佐渡の無名異焼窯元に生まれる。東京藝術大学彫刻科入学。陶芸専攻の無い時代、陶磁器研究会に加わり加藤土師萌に指導を求め学内に窯を築く。1990年教授就任。重要無形文化財「青磁」保持者◆島田文雄(1948-)1975年東京藝術大学大学院修了(陶芸)。藤本能道、田村耕一、浅野陽らに師事。2003年教授就任。◆豊福誠(1953-)1978年東京藝術大学大学院卒業(陶芸)。藤本、田村、浅野らに師事。2007年教授就任。

## ■■■関連行事■■■

アーティストトーク、講演会は聴講無料ですが、別途観覧料が必要となります(※会場の都合により、満席の場合はお立ち見となることがございます)。有料・事前予約制の行事は先着にての受付となります。※詳細は変更になることがございます。お電話、HPにてご確認ください。(美術館☎:03-5733-51531)

### ■ アーティストトーク「土との出会い、陶の表現」

①杉浦 康益 氏 7月22日(日)15時

②川崎 毅 氏、小池 頌子 氏 8月5日(日)15時

東京藝術大学を巣立ち、活躍を続ける作家の方に土との出会い、それぞれの表現と陶との関係など、作り手としてのこれまでとこれからについてお話いただきます。

### ■ 講演会「東京藝大、陶芸講座のいま」

島田 文雄 氏(東京藝術大学教授) 9月2日(日)15時

2003年より教授として東京藝術大学美術学部工芸科にて陶芸専攻の指導に当たられている島田文雄氏を講師にお招きし、同学における陶芸教育の現状についてお話いただきます。

### ■ 行ってみよう!「東京藝大、陶芸講座・研究室ツアー」

定員 20 名様(予約制) 7月17日(火) 14時 現地集合・現地解散(上野)

参加費:500円(資料代、他)

「藝大の制作現場」はどんなところなのでしょう?上野にある東京藝術大学陶芸研究室への見学会を行います。

### ■ 作ってみよう!「土で遊ぶ。アートな動物をつくる」子どもワークショップ

定員 12 名様(小~中学生の児童、予約制) 8月19日(日) 14時~

参加費:子どもお一人様 1,200円(観覧料、材料費込。当日観覧券をお持ちの場合は700円)

※保護者のご同伴をお願いします(要観覧料)。

作家の杉浦康益氏に指導をお願いしテラコッタ粘土での動物作りに挑戦します。素敵な作品を完成させよう!

### ■ ミュージアムコンサート in TOMO

定員 60 名様(予約制) 7月27日(金) 18時半~(開場 18時)

お一人様 2,000円(観覧料込。当日観覧券をお持ちの場合は1,000円)

閉館後の美術館展示スペースにて、東京藝術大学音楽学部出身の演奏家によるコンサートを開催します。

作品と音楽のハーモニーをお楽しみください。演奏:福崎雄也(ヴァイオリン)、内田佳宏(チェロ)。また、武澤陽介(作曲科卒業)により今回の為に作曲された新作を初演発表いたします。

### ■ 学芸員によるギャラリートーク 各土曜日 14時より

●7月14日(土)、21日(土) ●8月4日(土)、11日(土)、18日(土)

●9月8日(土)、22日(土・祝)

### ■ 西洋館見学会 (予約制・定員 20 名様 お一人様 8,000 円※)

7月28日(土)/9月15日(土) 各日 11時より

当館敷地内の西洋館(登録有形文化財)の通常非公開の内部を、展覧会の期間中に特別公開いたします。

※西洋館のご案内(建築家 篠田義男氏による)、美術館観覧料(学芸員の解説付)、レストラン、ヴォワ・ラクテでのランチを含む。

## 関係年譜

- 1941 年 東京美術学校附属文部省工芸技術講習所が開所（1951 年廃止）。同講習所は学校に陶芸課程のなかった時代に製陶実技の演習を行い、これが同校における陶磁教育の嚆矢となる。実技に関する指導は加藤土師萌の他、一時富本憲吉（美校・図案科教授を兼任）が行い、藤本能道、田村耕一らが学ぶ。
- 1949 年 東京美術学校を母体に、東京藝術大学美術学部が新制大学として誕生。
- 1954 年 前年に発足した愛好会「陶磁器研究会」のメンバー（彫刻科の三浦小平二等）が、加藤土師萌に指導を依頼し、学内に窯を築く。
- 1955 年 陶磁器講座、陶磁器研究室が設置され正規の陶芸教育が開始される。加藤土師萌が教授に就任、浅野陽が助手役となる。
- 1963 年 大学院課程が設置され、専門家養成を旨とする陶芸講座が発足。
- 1965 年 加藤土師萌の提唱で、陶芸教官、学生全員により組織された「杜窯会」の第 1 回作陶展が日本橋三越にて開催される（現在も継続し、2011 年第 48 回開催。）
- 1970 年 1962 年より助教授として着任していた藤本能道が教授に就任（～1986 年）。

## 貸出し画像

※掲載にあたっては、貸出し申込書リストのキャプションを表記のとおり入れてください。



3. 田村耕一（教授）「石榴文大皿」1978 年



4. 三浦小平二（教授）「青磁 ろば車飾り壺」1982 年



5. 小池頌子「貝のふたもの」2003 年



6. 杉浦康益「陶の植物園 ヒマワリの種子」2006 年



■本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、本リリースで紹介されている作品画像をデータでお貸し出しいたします。申込書のご希望の図版に☑を記し、用紙を返信のうえ、お問い合わせください。ご紹介いただく記事、番組内容については、情報確認のため校正の段階で事務局までお知らせください。お貸出しする画像データは本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。作品の画像を1点以上ご掲載の上、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展ご招待券を読者プレゼント用に提供いたします。申込書、所定の欄に招待券希望の旨を明記してください。

**掲載に関するお問い合わせ先 菊池寛実記念 智美術館 (担当：高田、島崎)**

TEL.03 (5733) 5131 FAX.03 (5733) 5132 <http://www.musee-tomo.or.jp/>

## 掲載・画像貸出申込書

### 返信先 FAX: 03-5733-5132

●貴社基本情報

会社名:	
担当部署:	担当者名:
住所:	
電話:	ファックス:
E-MAIL:	

●媒体情報

<b>新聞 雑誌</b>	媒体名:	
	発行日:	発売日:
<b>TV ラジオ</b>	媒体名:	
	放送日:	放送時間:
<b>ネット</b>	URL:	

●画像貸出リスト ※キャプションには作者/作品名/制作年/(撮影者)を必ず入れてください。サイズの単位はcm。

希望作品に☑	作品キャプション
<input type="checkbox"/>	① 伊藤東彦「布目蓮文長皿」1979年、高7.0 68.5×29.8
<input type="checkbox"/>	② 島田文雄「青白磁陰刻草花文皿」1975年、高10.0 径46.5 (撮影:田中学而)
<input type="checkbox"/>	③ 田村耕一「柘榴文大皿」1978年、高8.5 径42.0
<input type="checkbox"/>	④ 三浦小平二「青磁 ろば車飾り壺」1982年、高23.8 × 径25.6
<input type="checkbox"/>	⑤ 小池頌子「貝のふたもの」2003年、高25.5 43.0×40.0 (撮影:尾見重治)
<input type="checkbox"/>	⑥ 杉浦康益「陶の植物園 ヒマワリの種子」2006年、高25.0 径42.0 (撮影:畠山崇)

●読者プレゼント用チケット希望: 5組10名様 10組20名様